

みなとつぷ

Takanawa
Community News Magazine

高輪地区情報紙

2017年11月

Vol.34

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課
編集：みなとつぷ編集室



<http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>

CONTENTS

2 街が変わる 品川新駅(仮称)計画その2

3 この街にこの人あり

矢野 亮 さん

(独立行政法人 国立科学博物館
附属自然教育園 名誉研究員)



4 5

地域のあしあと

高輪地区の狛犬

6 暮らしプレイバック

山縣 美智子 さん

6 地域で活躍する若者

ショートトラックスケート 黒川 輝衣 さん

7 みなとつぷ10年の歩み展

7 フランスの家庭料理

かじきのバスク風

8 区からのお知らせ

水墨画と私

私が水墨画を始めたのは、パルプ工場を弟に渡した60歳の時で、港区の水墨画教室で大貫先生に教えを受けた時からです。小学校以来、筆をとったことがなかったのに、その面白さに魅かれました。

その後、私はダルマさんに心惹かれたので、静岡県の達磨画を指導されている禅寺を訪ね、涛聖和尚の教えを受けることとなりました。禅寺の教えは、絵を描く前に、必ず30分位の座禅から始めます。

筆で絵を描くということは、必ず心の修行が大事ということを教えられました。

そして、毎回、達磨大師像の絵の目、鼻、眉、口、耳などの部分を順次描き続けました。途中で和尚が「渡邊さん、飽きませんか?」と問われたことがありました。私は「和尚さんの筆跡を一つずつ身にしみこませていただくのを楽しんでおります」と答え、和尚は「あっ、そう」と簡単におっしゃいました。

毎回、みなと区民まつりに出展していたので、当時の山田区長さんが区民の皆さんに水墨画を教えられたらどうかといわれましたが、達磨大師画以外に勉強したことがなく、風景や草花の絵を勉強しながら、芝浦港南地区から水墨画教室をスタートし、芝地区、麻布地区、赤坂地区の各いきいきプラザで水墨画教室を開くようになりました。しかし、地元の高輪地区だけまだ開いていません。ぜひ、高輪地区でよい教室を開きたいと思っています。

日美展は北海道から九州、沖縄まで全国の水墨画愛好家が多数作品を出展する大きな展覧会です。今年この日美展の水墨画臨画部門に出展し、入選の連絡を受け、更に半月後、「国際文化カレッジ賞」受賞の通知を受け、2度びっくりしました。10年程前、「藍綬褒章」を受けて以来の驚きでした。私は今年の9月で95歳になりましたが、水墨画を続けていてよかったです。私は今年の9月で95歳になりましたが、水墨画を続けていてよかったです。「水墨画は長生きの秘訣」と和尚はよく言っていました。私も水墨画のおかげで長生きしています。

(担当/渡邊)



表紙絵 [タイトル] 山響 [作者] 涛心(渡邊 義信)さん (白金在住)

街が変わる

— 品川新駅(仮称)計画その2 —

みなとつづ25号で紹介した品川新駅(仮称)は、その後着々と整備が進められている。新駅整備に加えて、駅周辺の道路・公園等の都市基盤整備、JR品川車両基地跡地の開発、泉岳寺駅改良計画、泉岳寺駅周辺のまちづくりなど様々な事業が複合して、新駅を含むJR品川駅・田町駅間の街は大きく変わろうとしている。新駅の整備の状況とJR品川車両基地跡地のまちづくり計画について、東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部品川・大規模開発部の担当者からお話をうかがった。

開発コンセプト

新駅をはじめとしたJR品川車両基地跡地開発のコンセプトは、「グローバル ゲートウェイ 品川」である。世界中から先進的な企業と人材が集い、多様な交流から新たなビジネス・文化が生まれるまちづくりを目指している。将来的には品川駅、品川新駅(仮称)、泉岳寺駅を結ぶ南北の歩行者ネットワークが整備され、一部は「新東海道」として賑わいが身近に感じられる空間が形成される。

新駅の高輪側は国家戦略都市計画建築物等整備事業により、道路・公園等を先行的に整備し、新国際都市にふさわしい街区の形成を図る。

JR品川車両基地跡地開発における国際交流拠点の形成

グローバル ゲートウェイ 品川
Global Gateway Shinagawa

世界中から 先進的な企業と人材が集い
多様な交流から新たなビジネス・文化が生まれるまちづくり



品川新駅(仮称)について

新駅のデザインは、新国立競技場を担当した隈研吾氏によるもので、デザインのコンセプトは次のようである。

日本の魅力を発信する「和」のデザイン

伝統的な折り紙をモチーフにした大屋根は、下から見上げると障子をイメージして「膜」と「木」の素材を活用し、「和」を感じられる駅としている。

エキマチの一体化

駅と街が一体的空間に感じるよう、駅舎東西面に大きなガラス面を設けるとともに、コンコース階に約1000㎡の大きな吹き抜けをつくり、「えき」から「まち」の気配を意識できる。

また、「えき」と「まち」が連携したイベントを行うために、駅改札内に約300㎡のスペースをつくる。

バリアフリーと省エネルギーに配慮

改札内エレベータ4基、改札外に2基、エスカレーター8基を配置する。

太陽光パネルと小型風力発電機を設置し、駅の省エネに貢献する。



高輪側から見た駅舎 デッキで「まち」との一体化が図られる



折り紙をモチーフにした大屋根



障子を連想させるやわらかな光と木を感じる空間



大きな吹き抜け空間で「えき」と「まち」の一体化が図られる

※掲載している完成予想図は現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。図は全てJR東日本の提供です。

取材を終えて

新東海道の整備、品川新駅(仮称)の和のデザインなど歴史や文化のある高輪地区にも関係の深い計画となっている。大きく街の姿が変わっていても、現在の高輪地区と調和のとれたまちづくりを期待したい。

(担当/安藤、吉田、明石、梶、滝川、森)

整備スケジュール

2020年春

品川新駅(仮称)は暫定開業を予定している。

2024年頃

新駅前の区域を中心とした一部「街びらき」を迎える予定である。

2027年

リニア中央新幹線(品川ー名古屋間)の開業が予定されている。

2030年代

JR品川車両基地跡地の大規模開発が完成し、田町駅～品川新駅(仮称)～品川駅に至る国際交流拠点として成長する。

国家戦略都市計画建築物等整備事業(都市計画法の特例活用)による都市基盤整備

都市基盤整備 ・JR品川車両基地跡地における国際交流拠点形成と品川駅周辺地区における段階的まちづくりを推進するため、道路、公園等の都市基盤を先行整備し、新・国際都市に相応しい街区を形成する。



この街にこの人あり

独立行政法人 国立科学博物館附属自然教育園 名誉研究員 矢野 亮さん

しろかねの森番を48年やっています

暑さが残る緑が深い自然教育園に、しろかねの森番をしてしている矢野亮さんを訪れました。

皆さん良くご存じの自然教育園ですが、概要を紹介してください

この自然教育園の場所は、戦後まで、一般の人が入れず、自然が残りました。1949年に文部省所管になり、「天然記念物及び史跡」に指定され、国立自然教育園として一般に公開されるようになり、1962年からは国立科学博物館附属自然教育園になりました。面積は約6万坪(20ヘクタール)で、園内には、シイ林(園内の外周の土塁部分)、マツ林、落葉樹林(ミズキ、イイギリ、ウワミズガラなど)、同じ落葉樹のコナラ林(昔は人の手が加わった林)があります。そのほか、所々に池、川(基本的には雨水と地下水)があり、様々な動植物が育つ環境です。基本的には武蔵野の平野部の自然を保護した場所ですが、放置しておくことで鬱蒼とした常緑樹林になってしまいます。光



【プロフィール】 矢野 亮 (やの まこと)
1943年、満州生まれ。東京教育大学農学部林学科卒業。1969年より国立科学博物館附属自然教育園に勤務。2008年定年退職、現在名誉研究員
著書 「四季の森林」、「帰ってきたカワセミ」、「カワセミの子育て」(地人書館)、「自然観察ガイド」(街の自然観察)(筑摩書房)「植物のかんさつ」(講談社)など

が地表に届かず野草類が育ちにくく、チョウやバッタなどの昆虫類もいなくなってしまうので、あえて教材園として常に人の手を入れ管理しています。園内には植物が1473種、動物は2800種がこれまでに記録されています。園内では園内環境保全のためにいろいろな規制もあります。**矢野さんは自然教育園で、大変長く活躍していると聞きますが**
私は、しろかねの森番を48年やっています。森番(森の番人)の仕事は三つあります。一つ目は天然記念物に指定された森の維持管理です。野草の増殖、草取り、枝おろし、枯木の伐採、園路の整備、外来種の駆除、園内巡視など何でもやります。二つ目は森に住む生き物たちの生態調査で、三つ目は私の本職の森の出来事



自然教育園正門



竹トンボなどのアイディア一杯の遊び道具

を皆さんに話す教育の仕事です。園内に住む動植物の生活について皆さんにお話ししたり、植物を使ったクラフト作りで遊んだりします。今までいろいろなものを作り、子どもたちに紹介しました。ムクロジを使った羽根つきの羽、蜘蛛を呼ぶ音叉、松の種のクルクル回りなど森の中には遊びの材料がたくさんあります。

現在問題になっている地球温暖化は、自然教育園と周囲にどのような影響がありますか

地球は100年前に比べおよそ0.75度の気温の上昇がみられますが、都市部は3.02度まで達しています。これが「都市のヒートアイランド現象」です。上空から測ったところ、自然教育園が26度の時に、目黒通りが38度で、10度以上の差がある場所もありました。

園内の冷気が周囲に流れていて、この能力は家庭用エアコン4000台分にもなり、森が周辺市街地を冷やすエアコンの役割を果たしているといえます。これが「緑のクールアイランド現象」で緑は非常に大切なのです。
それは動植物の分布にどのような影響を与えていますか

自然教育園では、開園当初に比べ常緑樹は増加していますが、針葉樹が大幅に減少しています。その原因は大気汚染と下層からの木の突き上げです。温暖化の顕著な例は亜熱帯性シユロの出現です。開園当初には1本もありませんでしたが、

1980年代から増え、2010年には2324本と増加しています。多分、ヒヨドリが運んで来たのだと思いますが、温暖化で冬を越せるようになり、今では園内全域に多く生育しております。他にもマシアブミなどの暖地性の植物も増加しています。

動物にも変化が見られます。ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンは2002年にはゼロでしたが、今では多く見られます。温暖化でチョウがどんどん北上していると思われ、園内にチョウは58種類います。

外来種の動物が問題になっていますね?

池にはメダカ、モツゴ、スジエビ、トンボのヤゴなど多くの動物がいますが、一時密放流(ブラックバス、ブルーギル)により、多くの動物が失われました。在来種保護のために浚渫(泥上げ)をしました。この生態系の破壊はカワセミやカイツブリにも影響がでています。

ここでのカワセミの出会いは何年?

カワセミとの出会いは1988年からです。その年の4月8日に前日の大雪の後片付けをしている時に、ゴミ捨て場からカワセミが飛び立つ姿を見ました。その時にカワセミの巣穴を見つけ、それ以降繁殖の観察をしています。カワセミの特徴は口ばしが長いこと、足が短いこと、尾が短くそして何ととっても美しいコバルトブルーの後羽です。体の特徴は土に横穴を掘る巣作りに大きな役割を果たします。口ばしはツルハシ、足はジョレン(砂利などを集める道具)、尾は摩り切れないように短いです。

繁殖は雄が雌に餌をプレゼントする求愛から始まり、自分で巣穴を掘り、そこに卵を6から7個産みます。約18日で雛が誕生します。雛にはモツゴなどの餌を与



自然教育園生息のカワセミ (提供 山内英徳さん 2017年撮影)

えます。巣穴の中では雛が順番に行儀よく餌を食べていることもわかりました。餌を食べるとすぐに糞を外に向けて出し、巣穴の清潔を保ちます。そして24日後に巣立ちます。

自然教育園には子どもがよく来るようですね

高輪地区の小学校4年生を中心に学校単位で来園し、また、募集をした散策の会に親と一緒に参加する子どももいます。自然と触れる機会を作って、もっと多くの子もたちに来て欲しいです。

白金台の街は大分変わりましたね

以前はこの場所に住んでいた時期もありました。目黒通りは昔より広くなりビルが増えましたね。この地域から緑が減らないようにしたいです。

取材を終えて

地道な活動で自然を守り、いろいろなアイデアで子どもを始め来園者を楽しませてくれる姿がよくわかりました。笑顔溢れる楽しい時間でした。

(担当) 太田、土屋、松島、安藤、鈴木、森

1 承教寺 (高輪2-8-2)

承教寺は、高輪2丁目二本榎通りに面する日蓮宗の寺院。1299(正安元)年に創建され、江戸時代初期に虎ノ門からこの地に移転した。この寺の山門の前に不思議な形をした石造の狛犬がある。

ご住職が先代の住職から伝え聞いた話では、もともとあったものではなく、戦前に檀家の一人の方が置いていったそうである。その檀家の方は中国から持ってきて、自宅に置いてあったものを承教寺に移したとのこと。詳細は不明である。

左右同型であることや顔や体の形は日本の神社に類似したものがないことから恐らく中国から持ってきたものと推定される。

承教寺の狛犬は、顔は髭を生やした人面、身体は馬か牛のように見え空想の動物と考えられる。

正面から見た狛犬
髭のある人面ようである



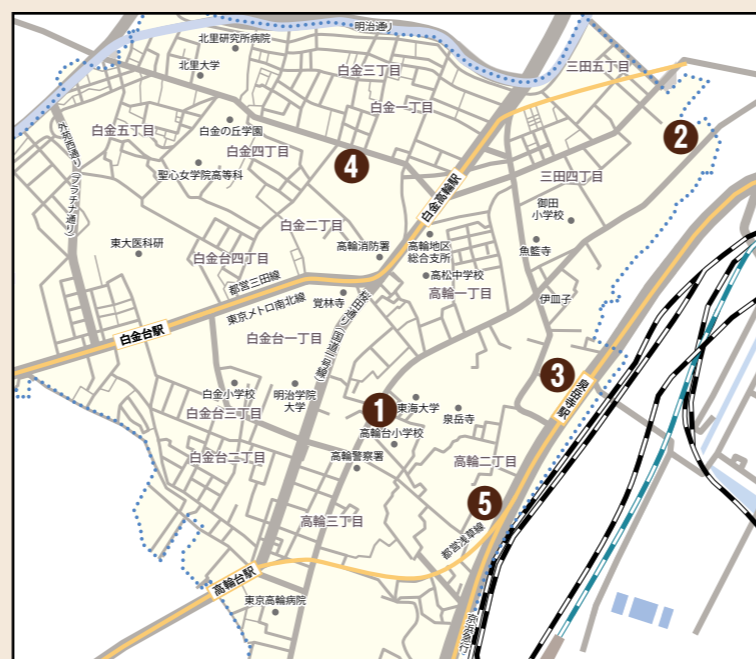
足を折って座っている胴体は
牛か馬のように見える



左の狛犬と同型である

地域のあしあと

高輪地区の 狛犬(こまいぬ)



狛犬

狛犬とは、神社や寺院の入り口の両脇や本殿・本堂の正面左右などに一対で設置されており、誰もが一度は見たことがあるだろう。もともとは獅子(ライオン)や犬に似た日本の獣で、想像上の生物とされる。

古代インドで、仏の両脇に守護獣としてライオンの像を置いたのが狛犬の起源とされ、中国から仏教とともに朝鮮半島を経て日本に伝わったとされている。

狛犬の語源は、日本人が見たことのない生き物を犬と勘違いし、朝鮮半島から伝来したため、「高麗犬」と呼ばれた・魔除けに用いたところから「拒魔犬」と呼ばれた、など諸説ある。

狛犬の配置については、一般的に右側が「阿形」で口を開き、左側が「吽形」で口を閉じている。この阿吽は日本独自の特徴で、日本に置ける仏教観を反映したものと考えられている。白金氷川神社鳥居先の石段横の狛犬に、顕著に見られる。

また、日本の狛犬は、天皇の玉座を守る守護獣として誕生し、平安時代には調度品として宮中で御簾や几帳をおさえる鎮子に、金属製の一対が使われたという記録もある。

神仏の守護の役割を果たす狛犬像は、従来は屋内に置かれるものが多く、木製であったが、現代のように石が使われるようになったのは、屋外に置かれるようになってからである。

江戸時代になると、諸大名が江戸の寛永寺や上野東照宮に競って石灯籠を寄進したように、経済力を持った町人の寄進・奉納により、各地の神社に膨大な数の石像狛犬が急増し、狛犬が庶民の生活風景の一部となるとともに、形態にも様々な変化が見られるようになった。

本記事以外にも、地区内には稲荷神社(高輪2-15)・高山稲荷神社(高輪4-10)・光台院(高輪1-23)に狛犬がある。

〈狛犬参考文献〉

- ・藤倉郁子(1995)『狛犬』岩波ブックサービスセンター
- ・ねずてつや(1994)『狛犬学事始』ナカニシヤ出版
- ・三遊亭円丈(1995)『THE 狛犬! コレクション』立風書房
- ・上杉千郷(2008)『日本全国 獅子・狛犬ものがたり』戎光祥出版

4 白金氷川神社 (白金2-1-7)

港区最古の神社といわれる白金氷川神社は白鳳年間(672~689年)に、白金村の氏神様として創建された。桜田通りから北里通りに入りしばらく行くと左に大きな鳥居がみえる。鳥居をくぐった先の石段の横で出迎える狛犬は、皇紀二千六百年を記念し1940(昭和15)年に奉納された。この年の狛犬の奉納が国威高揚につながると考えられたとの説もある。右側に位置する阿形は角をもたないが、左側の吽形は角を持ち、威風堂々というたたくまいである。



白金氷川神社鳥居



石段の横で出迎える狛犬



左側の狛犬



石段を登ったところで出迎える狛犬 右側の狛犬

一方、石段を登りきったところで出迎える狛犬は、頭が扁平で一見して河童のような容姿をしている。1777(安永6年)に奉納された。この頃、商人たちが、氏子である地元の神社の守り神として、狛犬を奉納するようになったともいわれる。

右側に位置する阿形は口を開け、左側の吽形は口を閉ざしている。後ろの尾は高さがやや違うものの形は同じである。神社を警護する象徴としての誇らしさが漂う。

2 亀塚稲荷神社 (三田4-14-18)

聖坂の左下、クウェート大使館を過ぎたあたりに小さな神社がある。

かつて、月の岬(現在三田4丁目)に出没した亀が、一夜のうちに石と化した。住民はこの亀を祀り、祠を設けた。太田道灌がこの地に物見台を設置する際に、この祠を守護神として社を創建した。のちに、この社を亀塚稲荷と称し尊崇するようになったと言われているが、創建年代は不詳である。



社殿



一対の狛犬

狛犬は守るべき本殿の右、左で参拝者と正対する形で置かれている。右側の狛犬は、口を開いて玉の上に、左手をのせている。左側の狛犬は、口を閉じて小獅子の背に、右手をのせている。神社を守っている狛犬の、阿吽の表情が特徴的である。

- この神社内には、以下の港区指定有形文化財がある。
- 弥陀種子板碑(3基)・港区に現存する板碑の中で最古である。
- 板碑(2基)・磨耗が激しく造立年などは解らないが、新田義貞一族の慰霊碑だと伝えられる。

3 願生寺 (高輪2-16-22)

第一京浜(国道15号)泉岳寺前交差点の近くにある願生寺には日本では珍しい羊の姿をした石像がある。

願生寺門前は江戸時代には車町牛屋七家と呼ばれ、江戸城増築などの際に重量物を運搬するため、京都牛屋から招かれた牛屋が常駐していた。この寺にはこの牛を供養するための牛供養塔と1689(元禄2)年から1830(文政13)年までに無縁となった人々を供養するための二千七百六十人霊供養塔がある。

願生寺山門を入り正面の本堂左手前に鐘楼に並び地藏堂があり、その前に羊の像が対になって狛犬のように置かれている。1945(昭和20)年頃に近隣に住んでいた旧満州鉄道に勤務していた方が、転居を機に自宅庭にあった石像をこの寺に置いて行った。石仏の由来や作者は不明で、この形は中国の山西省博物館に保管されているものに似ているようだが、関係は不明である。

未年(ひつじどし)には参拝者も多いが、普段は扉が閉められた静かな寺であり、見学には充分な配慮が必要である。



地藏堂と対の羊像



5 高輪神社 (高輪2-14-18)

境内には、港区でも一二を争うほど古いと言われる狛犬さんが、鎮座している。均一な硬い石質の狛犬は、長い歳月で黒光りし、顔の磨耗もかなり進んでいる。にもかかわらず、大きな安定感のある腰と大地から生えたような前足でどっしりと静かに座り続けている。狛犬さん! と呼びかけたくなるような愛らしい風情もある。江戸の数ある狛犬の中で「奉献宝永6年(1709)作者石屋佐次郎」と銘を持ち、作者・時代の分かる貴重なものである。

「石工」ではなく「作者」としたのは、佐次郎の心意気であり、この像は佐次郎の絶対の自信作だったのではないだろうか。

■瀧 雅人 補宜のお話

- ・たてがみが緩やかなカーブをして、古い形であることがわかります。時代が新しくなるほどきつくなります。
- ・昔、火を浴びているので、顔が崩れています。(1845(弘化2)年 青山火事で石門・石大鳥居・狛犬を残し、全て焼失)
- ・頭の上に小さな穴が空いていて、「かっぱ狛犬」とも呼ばれ、東海道筋には多く見られます。水を蓄えることから、火災を逃れるに通じています。昔はその穴にろうそくを立て、火をともしました。神社は大体山の上であり、沖からよく見え、灯台の役割を担っていたそうです。境内にある2本のイチヨウの木や、水屋の4隅にも小さな穴が空いており、同じ役割だったそうです。(江戸名所図会(天保年間1834-1836発行)に、この狛犬も、当時の海岸線も描かれている。)
- ・当神社は、古くから太子宮(明暦年間1655-1658建立)がメインで、建築関係の講があり、この限界ばかりでなく、江戸中の石材関係の人の崇敬を集めていました。だからこそ、この狛犬も京橋の石工組合の奉献となっているのです。



本殿と狛犬





山縣 美智子さん

山縣 美智子さん
 パートへ行った時の

多く、国境検問も厳
 しかったです。街には何も
 なかったけれど、旅
 行者には、ホテルで
 コーヒーにお砂糖ま
 で付いていました。
 ショウケースにはほ
 とんど物のないデ
 パートへ行った時の

(担当/伊関、吉田、土屋)

二・二六事件の日の授業は中断
 1936(昭和11)年、山脇学園女
 学校に入学。1年生の冬の日、中々
 授業が始まらず、おかしいと思っ
 ていると「大雪のため午前中で終わ
 り」と言われ、帰宅。二・二六事件で
 した。あたりには兵隊さんが大勢い
 たけれど、市電は動いていて、いつ
 もの通り帰宅しました。私は何も知
 らずにいましたが、ラジオで事情を
 知っていた家族は大変心配してい

旧東ベルリンにて
 一番印象に残っていることは、ベ
 ルリンの壁を見たいという主人の
 たつての希望で、崩壊の前年の東ベ
 ルリンを訪問したことです。鉄砲を
 持ったソビエト兵も
 多く、国境検問も厳
 しかったです。街には何も
 なかったけれど、旅
 行者には、ホテルで
 コーヒーにお砂糖ま
 で付いていました。
 ショウケースにはほ
 とんど物のないデ
 パートへ行った時の

「足るを知る」を糧に
 高輪に越してきたのは、1972
 (昭和47)年ごろで、その頃は、周り
 に個人商店がたくさんあって、賑や
 かでした。今はマンションが建った
 りして大分変わってしまいました。
 親から丈夫な体ももらい、何のい
 いこともしてこなかったのに、この
 年まで元気で、娘夫婦と一緒に暮ら
 せて、本当にありがたいです。いい
 時代を生きてきました。
 年々、昔のことは鮮明になってき
 ています。「足るを知る」という言葉
 を糧に毎日を朗らかに生きています。



小学生時代の美智子さん

いました。渋谷を通って行きました
 が、駅前では八公がウロウロしてい
 のを憶えています。

1944(昭和19)年に結婚、新婚
 旅行でいった箱根神社では、神主さ
 んに「この非常時に！」とどやされ
 たのを覚えています。でも宿泊先の
 富士屋ホテルでは食事もおやつも
 ちゃんと出ました。

高輪に越してきたのは、1972
 (昭和47)年ごろで、その頃は、周り
 に個人商店がたくさんあって、賑や
 かでした。今はマンションが建った
 りして大分変わってしまいました。
 親から丈夫な体ももらい、何のい
 いこともしてこなかったのに、この
 年まで元気で、娘夫婦と一緒に暮ら
 せて、本当にありがたいです。いい
 時代を生きてきました。
 年々、昔のことは鮮明になってき
 ています。「足るを知る」という言葉
 を糧に毎日を朗らかに生きています。

暮らしプレイバック

お話を伺った人 **山縣 美智子** さん(95歳・高輪在住)

長寿の秘訣は「仏さまに感謝」「足るを知る」です

高輪在住約50年の山縣美智子さんをお訪ねしました。御年95歳になられま
 す。お話を伺っていくと、私たちには教科書でしか知ることが出来ないこと
 が、美智子さんのごく日常に起きていたことに驚かされました。
 時代とともに歩んだ美智子さんの半生を語っていただきました。

渋谷の通学路で八公公にあう

1922(大正11)年、小石川に生まれ、5歳の頃旗の台へ転居、そこから青山まで電車を乗り継いで、小学校に通

ラジオの前で前畑がんばれ!

夏になると、家族で葉山の一角に家を借り、ひと夏を過ごしました。当時の一色は昭和天皇の御用邸があり、陛下がよくいらつしやうていたせいか治安も良く、娘たちだけで海へ行き、母はあとからおやつを持ってくるくらいでした。1936(昭和11)年8月に行われたベルリンオリンピックの時は、ラジオを聞きながら、「前畑、がんばれ!」とみんな応援しました。

ことです。7歳の現地の現地の男子が、デパートの入り口で、後ろからきた私のためにドアを押さえてくれました。私がどう!という時、その子もびっくりしていつてしまいました。見ず知らずの東洋人の私のためにドアをおさえてくれたことに本当にびっくりし、感激しました。家庭の教育かとも思いました。今は、自動ドアが当たり前で、子どもたちはドアの前で立っているだけと聞きます。文明も良し悪しと思えます。

《ショートトラックスケートで世界に挑む17歳》

—東京アスリート認定選手 黒川輝衣 さん—

タイムトライアルではなく着順で勝敗が決まることから「氷上の競輪」とも呼ばれ、レースでの駆け引きが魅力のショートトラックスケート。東京アスリート認定選手(国際大会出場を期待される東京都認定のアスリート)として、この競技で高輪地区から世界へ羽ばたこうとしている黒川輝衣さんにお話を伺いました。

地域で活躍する若者



黒川 輝衣さん

出会いは五輪選手発掘プロジェクト

小学1年生からバスケットボールをやっていたが、小学4年生の時に福岡県の五輪選手を発掘するプロジェクトで選ばれ、これをきっかけに小学5年生でショートトラックスケートに出会いました。

毎回タイムが上がる喜びと自分自身が吹き飛ばされてしまいそうなほどのスピード感に魅了され、小学6年生でショートトラックスケートへの転向を決めました。

日々自分との戦い

普段の生活では、朝は高輪地区をランニングしてから北区の高校へ。学校から帰ってくるとコーチの指導のもと練習に取り組みます。毎日スケートリンクで練習出来るわけではないため、リンク外では下半身強化のトレーニングを行っています。

練習時間に練習するのは当たり前。それ以外の時間でどれだけ努力するかだと考えています。スケートは個人競技のため、自分との戦いで辛いことも多いですが、成果が上がればその分嬉しいのも自分なので頑張れます。

長期遠征などがあると学校に行けないこともあります。好きな科目は理系科目です。大学でスケートを学問として研究している先輩方もい

るので、将来への夢も膨らんでいます。

トレーニングに適している高輪地区

コーチのもとに1人で福岡県から上京してきたため、炊事など家のことは全て自分で行っています。そのため買い物に行くにも、近くで揃うのでとても便利です。練習もトレーニングも家の周りで行っているので、私にとって高輪地区は住みやすい街です。

夢は北京五輪でメダル獲得

中学で全日本Novice & Junior大会(ノービスA)年間総合優勝をし、ショートトラックスケートを始めてから初めて結果を出しました。しかし、昨年は世界ジュニアへの出場権を逃してしまい悔しい思いをしました。この悔しさを胸に練習に励み、まずは世界ジュニアへの出場を、そして大きな目標として、2022年北京五輪でのメダル獲得を目指して頑張ります。

取材を終えて

終始、笑顔でお話しいただいた黒川輝衣さん。さわやかさの中にも強い信念を感じ、北京五輪の表彰台に立つ姿を見るのも決して夢ではないと思いました。

レースで颯爽と滑る黒川さん



中学2年で待望の初優勝!!



(担当/若生、梶、松島)

開催のご報告

高輪地区情報紙「みなとっぶ」10年の歩みと表紙を飾ったアーティスト展

「みなとっぶ」10年を記念した展示会を、9月22日から24日の3日間、高輪区民センター展示ギャラリーにて開催いたしました。期間中300人を超える方々にご来場いただき、高輪地区の出展アーティストの作品などを満喫していただけたと思います。

また併せて開催した子ども向けのワークショップやイベントでも、子どもたちの真剣で楽しそうなまなざしが印象的でした。

「みなとっぶ」を支えてくれたアーティストたち

今回の展示会には、絵画、写真、書、能楽、版画など様々な分野にわたり、これまでに「みなとっぶ」の表紙を飾っていただいた高輪地区のアーティストの中から15名の方に出展していただきました。

会場では、展示作品の1点1点を丁寧に鑑賞している方も多く見かけ、また「素晴らしい」「3日間ではもったいない」との言葉もいくつかいただきました。併せて、会場前には「みなとっぶ」全号を掲示し、10年の歩みもご覧いただけたと思います。



出展アーティストを迎えてオープニングセレモニー

出展アーティスト（敬称略、50音順）

- 画家／阿部慎蔵・今井みどり・小川エリ・佐伯庄吾・島田公子・高橋美穂・松島純・三嶋禮雄
- 空間プロデューサー・アートディレクター／相羽高徳 ●写真家／高井哲朗・山内英徳
- 書家／國兼凜仙 ●日本画家／中島千波 ●能楽師／友枝昭世 ●版画家／原田維夫



みんなの「一文字」が集まりこんな大きな作品になりました

ワークショップ その①

「書で遊ぼう」

自分の好きな「一文字」を考えてきた8名の子もたち。書家の國兼凜仙先生の指導で、大きな紙の各々の割り当て場所に書いて、みんなの共同作品が完成しました。

（*この作品は11月11日～27日まで、高輪コミュニティーぶらざ1階の階段横の壁面に展示されます。）

ワークショップ その②

「オリジナルのマスク(仮面)を作ろう」

画家の小川エリ先生の指導で、真っ白なマスクを絵の具やレースなどで飾り付けた子どもたち。最後はそれぞれの個性あふれるオリジナルマスクが出来上がりました。



みんなお気に入りのマスクができました

イベント

「折り紙の紙芝居・ももたろう」

画家の今井みどり先生が折り紙作品で作ったきれいな紙芝居を上演しました（語り手：久津弘子さん）。その後子どもたちは今井先生から折り紙の折り方を教わり、たくさんの作品を作りました。



ももたろうがんばれ！ みんなの応援も真剣です

愛される情報紙を目指して

今回の展示会は、「みなとっぶ」編集スタッフの熱い想いと、出展していただいたアーティストのみなさまの協力で実現しました。お忙しい中ご来場いただいた方々をはじめ、すべてのみなさまに感謝いたします。

編集スタッフ一同、愛される情報紙作りを目指して一層頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

（担当／梶、土屋）

マダム ミムラの おすすめ料理

かじきのバスク風

- | | | |
|-----------------------------|----------------|-----------------------|
| 材
料
（
4
人
分） | かじき……………4切れ | オリーブ油又はサラダ油……………大さじ4 |
| | ピーマン……………2個 | 小麦粉……………大さじ2 |
| | トマト（完熟）……………2個 | （塩小さじ1弱とコショウ少々を混ぜておく） |
| | 玉ねぎ……………1/2個 | 塩、コショウ……………各少々 |
| | にんにく……………1かけ | バジル……………7～8枚 |



フランス バスク地方の家庭料理

① ピーマンは、縦に二つ割して種を取り、横に細切り。トマトは、皮を剥き、横二つに切って種を除き、1センチぐらいのざく切り。玉ねぎは、繊維に沿って薄切り。にんにくは、みじん切り。バジルは、千切り。

② 厚手鍋を熱して大さじ2の油を入れ、玉ねぎを炒める。透きとおってきたらピーマン、トマト、にんにくの順に加えてさっと炒め、軽く塩コショウして、バジルを加え、蓋をしてごく弱火で約10分煮る。

③ 厚手のフライパンを熱して残りの油を入れ、かじきに、塩コショウを加えた小麦粉を薄くまぶして両面を強火で色づく程度に焼く。

④ 野菜の上にかじきを並べ、蓋をしてごく弱火で7～8分煮る。
（途中で水分が少なくなったら、水を少し足して煮る。）



ポイント 1 キッチンペーパーなどで、かじきの余分な水分を前もって取っておきましょう。

ポイント 2 トマトの皮を剥くには、1、2個なら湯剥きより、フォークで刺してガスの直火で炙ると手軽にできます。



三村真喜子さん ●料理研究家。フランスの国立料理学校に留学し、基礎からしっかり学んだ経験を生かして、日本人に無理なく作れる本格レシピを紹介している。

（担当／森、滝川、松島、佐藤）

区からのお知らせ

高輪地区地域情報ポータルサイト「プラチナたかなわ.net」

地域活性化を目的に、高輪地区の民学産官が連携して地域情報ポータルサイトを作成しました。

プラチナたかなわ.net(愛称「プラたか.net」)は、NPO法人ウィズ・ユーが事務局を担い、東海大学がシステム構築及び管理を行い、高輪地区総合支所が町会・自治会等のコンテンツ作成支援や地域団体との橋渡しをしています。また、地域情報を先駆的に発信してきた白金タイムズがデザインを監修しています。

運営については、上記の団体の他、町会・自治会、商店会、高輪警察等が参画する「プラチナたかなわ.net 運営委員会」で実施しています。

地域の様々な情報を集約するだけでなく、地域で活躍する若手の人材(高輪四十七氏)紹介や、おいしい地元グルメ(たかなわグルメ)の紹介、意外と知らない地域の歴史探訪などのオリジナルコンテンツも掲載しています。

地域のために、地域の人々で立ち上げたプラチナたかなわ.netを、ぜひご覧ください。

【問合せ先】 高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 TEL:03-5421-7621



<http://p-takanawa.net>

プラたか.net

検索

高輪地区住民参加の防災映像作品(第3弾)を作成しています!



たかなわ地域防災研究事業映像作品「大震災、本当に大切な事とは!!」

たかなわ防災

検索

【問合せ先】 高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 TEL:03-5421-7621

地域防災力向上を目的に各地域防災協議会のメンバー並びに東海大学、北里大学、明治学院大学の学生や教授に参画していただき、防災映像作品(第3弾)を作成しています。5月、6月、7月に開催された「企画検討会」では「地域」、「コミュニティ」、「共助」、「挨拶」など、地域のつながりがキーワードとなりました。今後、このメンバーからいただいた意見を参考に、台本の作成及び撮影に入っていきます。



第2回企画検討会の様子

また、第1弾「えっ、違うの!~正しい防災知識と災害時の心構え~」、第2弾「大震災、本当に大切な事とは!!」は現在、港区ホームページやYouTubeでも視聴ができます。ぜひ「たかなわ防災」で検索してみてください。貸出も行っておりますのでご希望の方は問合せ先までご連絡ください。

コミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブが中心となり運営しているカフェです。地域の人が気軽に集い、交流する場をつくることで、地域コミュニティの活性化を図ることを目的に開設しています。お誘い合わせの上、気楽に当日直接カフェにお越しください。

- 対象** どなたでも
- 日時** 毎月第2・4金曜日 午後1時30分~4時
- 場所** 高輪コミュニティぷらざ2階 展示ギャラリー前
- 料金** 無料

※高輪区民協働スペース(HUG高輪2階)でも毎月第3火曜日午後1時30分~4時までカフェをオープンし、ミニ講演会も開催しています。

【問合せ先】 高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 TEL:03-5421-7123



コミュニティ・カフェの様子

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとっぴ バックナンバー

編集だより

▼JR品川新駅のデザイン、低層で和の雰囲気が高輪地区に似合いそうです。開業が楽しみです。(安藤)

▼情報紙の10年を振り返るアーティスト展では貴重な体験を得た。(土屋)

▼「みなとっぴ」の10年、多くの方々の支えあってこそ。改めて感謝申し上げます。(吉田)

▼神社や寺院で狛犬を見ると、子供の頃自宅裏のお宮で遊んだことを思い出して、懐かしいです。(明石)

▼表紙絵の渡邊さん・暮らしプレイバックの山縣さん、ともに95歳!お年寄りがお元気だと、私たちも活力をいただけるようです。(伊関)

▼ワークショップでは子どもたちの笑顔と元気にパワーをもらいました。皆の心に残る思い出になればと思います。(岩本)

▼自然を維持管理し、子どもたちに自然の楽しさを伝える矢野さんに接し素晴らしい時間を過ごしました。微笑も素晴らしいです。(太田)

▼狛犬。ふとしたところから地域の歴史を垣間見ることが出来るんだなど。なんとなく、小学生の頃の自由研究・総合学習を思い出しました。(大西)

▼待ち望んでいる品川新駅(仮称)。その姿が徐々に明らかになっていきます。3年後の暫定開業がますます楽しみになってきました。(梶)

▼表紙絵展。作家も見る側も、同じ地域に住むお隣さん同士。アットホームな展覧会でした。(佐藤)

▼カジキの新たなメニューに挑戦。簡単に美味しいフランス料理に感謝です。(滝川)

▼編集委員をしていると、高輪地区にはスゴイ方がたくさんいらつしやるのが分かります。改めて、素敵な街だと思いました。(戸部田)

▼毎回、編集会議では、さまざまな意見が飛び交います。正解のないこともあり、集約するのは難しい。それで出来上がった紙面です。(松島)

▼お料理を試作した時、生のカジキが手に入りました。カジキってこんなに美味しかった?と思う程、しつとり旨み溢れる仕上がりになりました。(森)

▼黒川選手の言葉1つ1つからは、オリンピックへの熱い思いと力強さを感じました。(若生)

▼鳴く鹿の 紅葉の森に 友を呼ぶ
白金三光町に生まれ育って95年。高輪地区の情報紙「みなとっぴ」も創刊10周年となり、増々の発展がたのしみです。(渡邊)

- 区民編集メンバー**
- 安藤洋一(チーフ) 太田 則義
 - 土屋和夫(サブチーフ) 大西 弘毅
 - 吉田由紀子(サブチーフ) 梶 昌夫
 - 明石美穂子 佐藤 雅子
 - 伊関 則子 鈴木 智絵
 - 岩本 菜穂 滝川 まりえ
 - 戸部田 伊織
 - 松島 佐紀子
 - 森 裕子
 - 若生 愛香
 - 渡邊 義信

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。区民課窓口サービス係

5421-7612 / 保健福祉係

5421-7085